

「炎から逃れ水を求めて雁木に集まってきた人々」



作／松田優奈 所蔵／広島平和記念資料館

広島市立基町高等学校普通科創造表現コース 「～次世代と描く原爆の絵2016～」

広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの生徒の皆さんが、被爆体験証言者と共同で制作に取り組まれた「原爆の絵」10点をお借りし、展示させていただきました。

制作にあたり生徒の皆さんは、証言者の被爆体験を聴き、想像を絶する光景をどう描くのか悩みながら、資料を集め、証言者と何度も打ち合わせを行い、この「原爆の絵」を描かれました。それぞれの絵には、被爆体験証言者と生徒の皆さんの「伝えたい、伝えなければならない」という熱い想いが表現されています。

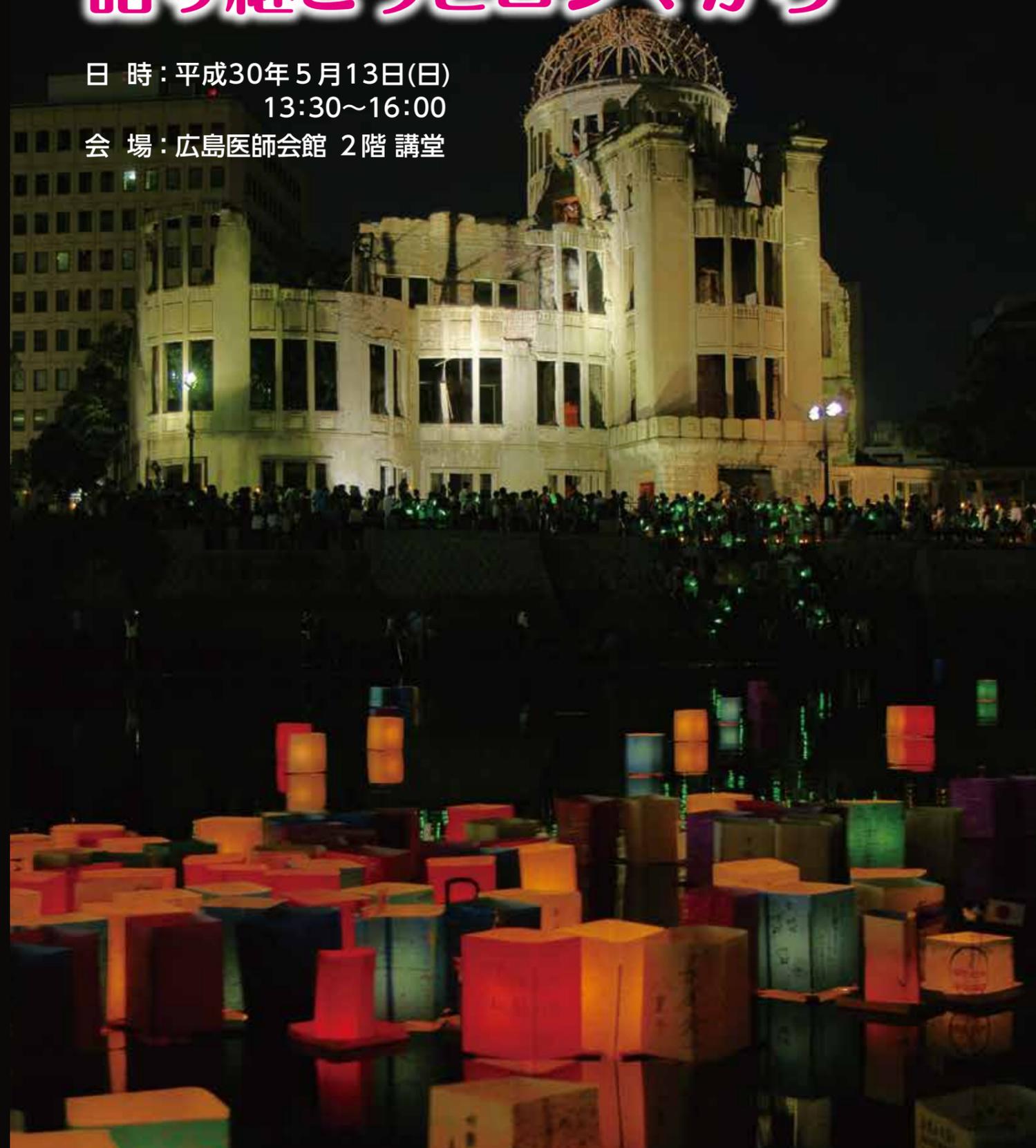
ぜひご覧いただき、その想いを受けとっていただければと思います。

広島市医師会 市民公開講演会

世界の若人へ 語り継ごうヒロシマから

日 時：平成30年5月13日(日)
13:30～16:00

会 場：広島医師会館 2階 講堂



ご挨拶



広島市医師会は、平成27年の被爆70周年を機に、あの日ヒロシマで何が起きたのか、そして被爆者の心身にどんな影響があったのかを次の世代に語り継ぎ、共に学び、核兵器のない戦争のない平和な世界を築くために、市民公開講演会を開催しました。

今年で4回目の開催となりますが、テーマを「世界の若人へ 語り継ごうヒロシマから」とし、放射線の人体への影響について学び、被爆医師の体験を聴いていただき、核兵器、戦争、平和について一緒に考えていきたいと思います。

—昨年5月27日には、米国のオバマ大統領(当時)がヒロシマを訪問し、被爆者と会い、核兵器なき世界のメッセージを世界に発信しました。「核兵器廃絶」の実現に向け大きな一歩となりました。そして、昨年7月7日には、ヒバクシャの悲願であった核兵器禁止条約が国連で採択されました。さらに今年は、朝鮮半島の非核化を目指し、米朝首脳会談も開催される予定です。

私たちヒロシマの医師は、原爆投下後被爆者の救護活動に専念した医療従事者の体験を原点として、被爆体験の継承と被爆医療の推進、そして核兵器のない平和な世界を希求することを使命と考え、今後もこの事業を継続していきます。

本日はご出席いただきありがとうございます。

一般社団法人 広島市医師会 会長 松村 誠

開会挨拶 一般社団法人 広島市医師会 会長 松村 誠

14:00～

基調講演 「原爆放射線の身体的・精神的影響」

14:05～



講師 広島大学名誉教授

鎌田 七男 先生

1961年 広島大学医学部医学科卒業。1970年 医学博士号取得(長崎大学)。

1985～2000年広島大学原爆放射能医学研究所血液学研究部門教授。1997年～1999年広島大学原爆放射能医学研究所所長。放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)会長なども歴任。2001年～2017年 広島原爆被曝者援護事業団理事長。1999年 中国文化交流賞受賞。2009年 日本対がん協会賞受賞。2017年 広島市民賞受賞。主な著書「広島のおばあちゃん」「One Day in Hiroshima」。

プログラム

オープニング 中学生・高校生によるオープニング —管弦楽演奏— 13:30～

広島大学附属中・高等学校管弦楽班

メリー・ポピンズメドレー
作曲 ロバート・シャーマン 編曲 原 寛暁



こんにちは。私達は、広島大学附属中・高等学校管弦楽班と申します。

年間の活動は様々ですが、主に12月末の全国高等学校選抜オーケストラフェスタ出場や8月上旬の定期演奏会開催を節目の目標として、中学生・高校生約100名が一緒に日々仲良く活動しています。

さて「メリー・ポピンズ」は、1964年にジュリー・アンドリュース主演で製作された名作ミュージカル映画です。

この映画では、「家族との絆」や「目の前にあるのに見えないもの」など、「身近な平和の大切さ」につながるテーマが温かく描かれています。

本日は「チム・チム・チェリー」や「2ペンスを鳩に」など数曲を選び、オリジナルアレンジのメドレーとしてまとめました。

数々の素敵な旋律を、心を込めて演奏させていただきます。どうぞ最後までお楽しみ下さい。

語り継ぐ会 —被爆医師の被爆体験講話— 14:40～



講師 医療法人慈徳会 真田病院 名誉院長

真田 光明 先生

昭和10年(1935年)広島市堀川町で生まれた。(現在83歳) 済美(せいび)小学校、修道中学校・高等学校を経て昭和28年広大医学部入学。昭和35年広大大学院産婦人科教室に入局、呉共済病院、音戸町立国保病院を経て、昭和42年父が開業した真田病院に副院長として勤務し、平成12年に院長、平成29年より名誉院長に就任。

昭和20年6月 安佐郡緑井村(現安佐南区緑井)の緑井小学校に疎開。昭和20年8月6日 緑井小学校校舎南側で原爆の爆発を目撃した。

講師 砂本内科 元院長

砂本 忠男 先生

昭和10年(1935年)福山市郊外道上村にて出生。父は印哲を出た教師。昭和11年広島市仁保町大河山城屋に転居。昭和16年父の転勤に伴って、賀茂郡西条町に転居。昭和20年8月6日、従弟の葬儀のため泊まった仁保町大河山城屋の叔父の家にて被爆。昭和28年広大医学部進学コースに入学。同年暮、仁保町大河山城屋(現南区山城町)に転居。昭和35年広大医学部卒業。広島市民病院にてインターン後、昭和36年広大第一内科に入局。広島三菱病院内科医長を経て、昭和48年砂本内科を明治生命ビルついでシェラン袋町ビルにて開業。本年3月引退、閉院。

被爆医師と高校生の座談会 15:25～

講師 真田 光明 先生 砂本 忠男 先生

閉会 16:00